

開館日カレンダー 2024年4月～9月までの予定

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
														30						

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30					

■ 休館日
 ■ 特集展示「こんな人形、集めました!—西澤笛畝の人形コレクション選—」
 ■ 企画展「にんぱくの人形修復(仮)」
■ 特別企画展「高橋まゆみ作品展(仮)」
 ■ 展示室1・2(常設展)のみ開室
 ● 常設展展示解説 午後2時～ ※申込不要、要観覧券
◆ 特集展示関連イベント
 ◆ 5月1日「さいたま市民の日」は、観覧料無料

これからの展覧会

企画展「にんぱくの人形修復(仮)」

2024年7月20日(土)～9月8日(日)

木や和紙、裂などの様々な素材からなるデリケートな人形を末永く後世に伝えていくためには、修復は必要不可欠です。これまで当館で行ってきた人形修復について、各処置や衣装の復元等の事例を通して紹介します。



人形修復の様子

特別企画展「高橋まゆみ作品展(仮)」

2024年9月21日(土)～12月8日(日)

ふるさとの空気や情景をまとった、ノスタルジックな人形を作ることで知られる、人形作家・高橋まゆみ氏。あたたかさやさしさに包まれた、高橋氏の人形作品を紹介します。



高橋まゆみ氏

【にぎわい交流館いわつき】

博物館に隣接する、にぎわい交流館いわつきでは、体験講座やイベント、カフェ・ショップでの食事や買物をお楽しみいただけます。(Tel.048-757-2981 / Fax.048-793-4074)

※イベント等の詳細は、ホームページをご覧ください。
<https://www.nigiwai-koryukan.jp/>



■ 基本情報

【開館時間】 午前9時～午後5時

※入館は閉館時刻の30分前まで

【休館日】 月曜日(休日の場合は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

※臨時に休館・開館することがあります。

【観覧料】 一般: 300円(団体: 200円)

高校生・大学生・65歳以上: 150円(団体: 100円)

小学生・中学生: 100円(団体: 50円)

※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。

※団体は20名以上。

※展覧会により観覧料が異なる場合があります。

※掲載資料のうち、特に表記がないものはさいたま市岩槻人形博物館蔵です。

Instagramで情報発信しています!



〒339-0057

埼玉県さいたま市岩槻区本町6-1-1

Tel.048-749-0222 Fax. 048-749-0225

<https://ningyo-muse.jp/>

IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS Vol.07

2024年3月発行 編集・発行: さいたま市岩槻人形博物館

※このリーフレットは25,000部作成し、1部あたりの印刷経費は約16円です。



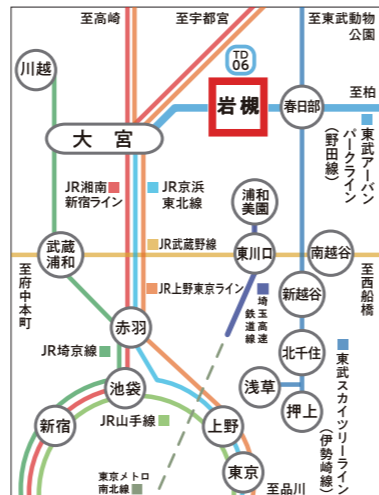
◎ 交通案内

【電車をご利用の場合】 東武アーバンパークライン(野田線)「岩槻駅」から徒歩約10分

※大宮駅から岩槻駅までの所要時間は約12分です。

【車をご利用の場合】 東北自動車道「岩槻IC」出口から約5.5km、車で約12分

※駐車場は、普通自動車用28台、車いす用2台、乗降スペースは、大型バス用2台分があります。なお、にぎわい交流館いわつきとの共用です。



IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS

Vol. 07



タイ 張子の被り物(左より) 虎/象/馬 1931年頃

特集

特集展示「こんな人形、集めました! —西澤笛畝の人形コレクション選—」

Contents

特集展示「こんな人形、集めました!—西澤笛畝の人形コレクション選—」/常設展 Close-up / イベント

Information / 学芸員の研究ノート第7回「大きな雛人形が流行～華美化する江戸時代の雛祭り～」

開館日カレンダー/これからの展覧会



特集展示 「こんな人形、集めました!—西澤笛畝の人形コレクション選—」

2024年4月27日(土) — 6月30日(日) / 展示室3

さいたま市岩槻人形博物館では、大正・昭和の日本画家で、人形玩具研究家・収集家でもあった西澤笛畝の集めた約3,500点に上る人形等を所蔵しています。笛畝コレクションは、江戸時代に作られた雛人形や御所人形など、古典様式の人形を多く含み、日本有数の人形コレクションとして知られています。

一方で、笛畝は日本や世界各地のバラエティ豊かな人形も数多く収集しました。大正末期から昭和初期にかけて世界各国にわたった笛畝は各地で人形を集めました。また、国内の人形についても、全国各地の郷土玩具から、芝居人形や人形浄瑠璃の首、遺跡から出土した人形など、さまざまな人形を集めました。本展では、当館の笛畝コレクションのなかから、いまや希少となったそのユニークな人形の数々を、笛畝の収集の軌跡とともに紹介します。

《休館日》 月曜日(4月29日(月・祝)、5月6日(月・休)は開館)

《観覧料》
 一般/300円(200円)、高校生・大学生・65歳以上/150円(100円)、小学生・中学生/100円(50円)
 ※()内は20名以上の団体料金。 ※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。 ※5月1日(水)は、さいたま市民の日につき観覧料無料。

《関連イベント》

- 1 ボランティアによる展示解説(常設展) 日時:5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)
 ①午後2時~、②3時~ 各回20分程度
 内容:当館ボランティアが西澤笛畝コレクションを中心に常設展示を解説します。
- 2 特集展示オリジナル缶バッジ作り 日時:5月5日(日・祝)、6日(月・休) / いずれも午前10時~午後3時、先着100名(1人1個) 会場:当館会議室
 内容:西澤笛畝コレクションのなかからお気に入りの人形の画像を選んで缶バッジを作ります。
 ※いずれも申込不要。①は展示室前、②は会議室にお集まりください(①は要観覧券)。



見どころ紹介 **ぜひ** を見てください!

人形と絵のコラボ! 2つの顔を合わせ持つ、西澤笛畝

花鳥画の伝統を受け継ぐ荒木派に学び、大正から昭和期の画壇で活躍した日本画家・西澤笛畝(1889~1965)は、画業の傍ら、生涯をかけて人形の収集と研究に情熱を注いだ、人形玩具研究家・収集家でもありました。

当館が所蔵するコレクションのなかには、笛畝の集めた古典様式の人形や古今東西のバラエティ豊かな人形とともに、笛畝の描いた絵画など画家としての一面を覗かせる絵画資料もいくつか残されています。

本展では、笛畝の人形コレクションと合わせて、写真の「玩具絵貼交屏風」を紹介しします。これは一隻が縦横約150cmの二曲一双の屏風に、笛畝が集めた国内外の人形玩具の絵を貼り込んだものです。地域は、日本、中国、韓国、タイ、インド、チェコスロバキア(現在はチェコとスロバキア)、イタリアなど世界各国にわたっており、人形玩具の実物も笛畝コレクションのなかに残されています。画家と人形収集家との2つの顔を合わせ持つ、西澤笛畝ならではの本資料を実物の人形玩具と合わせて展示しますので、ぜひ間近で見比べてみてください。



西澤笛畝 玩具絵貼交屏風 昭和時代



花巻土人形 司馬温公墓割 江戸~明治時代

常設展 Close-up

当館を代表する名品や季節に関連する作品を紹介するウェルカムケースには、端午の節句を祝う鎧飾が登場します! 展示室2「コレクション展示 日本の人形」も定期的に展示替えを行っていますので、ぜひご注目ください。

鎧飾

昭和14年(1939)頃
 展示室2
 2024年4月9日(火)~6月下旬(予定)

勇壮な雰囲気の大鎧を模した鎧飾は迫力満点! 日本橋十軒店(現東京都中央区)にあった老舗人形店・永徳齋で詠えられたもので、日本橋の小間物商・天野家の旧蔵品です。ほかにも端午の節句にちなんだ作品を展示します。



衣裳人形 勅使行列

江戸時代
 展示室2
 2024年5月28日(火)~7月上旬(予定)

華やかな御所車を曳く、生き生きとにぎやかな仕丁たち(写真は部分)。京の賀茂神社で旧暦4月に行われていた賀茂祭(葵祭)の行列をモチーフにしたものです。今話題の『源氏物語』にも賀茂祭の場面があります。ぜひご覧ください!



イベント Information

ミュージアムショップのご案内

当館では、ここでしか手に入らないオリジナルグッズを多数ご用意しております。来館の記念やお土産などにいかがでしょうか。ご来館の際には、ぜひお手に取ってご覧ください。 ※ミュージアムショップはご観覧されない方でもご利用いただけます。



【主なミュージアムグッズ】

ポストカード、クリアファイル、マグネット、マスキングテープ、一筆箋、メモ帳、マグボトル、キーホルダー、てぬぐい、エコバッグ など

■岩槻人形博物館ボランティア募集中!

当館では、来館された方が作品(資料)をより深く味わい、楽しんでもらうためのお手伝いをするボランティアを募集しています。博物館と人、人と作品をつなぎ、来館された方が興味の扉を開くサポートを一緒にしてみませんか。

【活動内容】

- ・学校見学等の対応(展示解説)
 - ・ワークショップなどのサポート(イベントの補助)など
- ※当館からお願いする展示解説やイベントに可能な範囲でご参加いただくこととなります。

【活動場所】

さいたま市岩槻人形博物館内

【募集案内】

- ・応募時に18歳以上で、子供たちや仲間とともに学び、活動することに生きがい、やりがいを感じる方
- ・積極的に活動する意欲を持った方
- ・「ミュージアムが好き、子供が好き」な方
- ・当館が実施する研修に参加できる方
- ・ご自身でE-mail連絡が可能な方



【応募方法】

当館ホームページ (<https://ningyo-muse.jp/>)をご確認ください。

第7回 学芸員の研究ノート 大きな雛人形が流行 ~華美化する江戸時代の雛祭り~

ここに1枚の古写真があります。この4月からの特集展示で紹介する西澤笛畝(1889~1965)の若き日の姿を写したのですが、注目したいのは、一緒に写る雛人形です。この雛人形は形状から「享保雛」と呼ばれるもので、江戸時代に製作されたものと思われませんが、とにかくその圧巻の大きさには目を見張るものがあります。

実は、江戸時代の雛祭りはとても華やかで、大きな雛人形が好まれていたことが知られています。華やかな雛祭りが流行するのは、宝暦・明和頃(1751~1772)からとされ、明和・安永・天明(1764~1789)の頃には大きな雛人形が江戸の町に広がっていました。

幕府では江戸時代前期より雛道具の華美を禁止する触れを出しており、享保期(1716~1736)には8寸(約24cm)以上の雛人形を飾ることを禁じました。それでも、この禁令の網の目をくぐって、江戸の町では大きな雛人形が求められたようです。

ところで、これまでの研究において、名家や武家、富裕な商

家などの家に60cmを超える雛人形が残されていることが確認されています。古写真の雛人形も60cmを優に超えているように見えますが、ではなぜこのように大きな雛人形が好まれたのでしょうか。

大きな雛人形への嗜好は、太平の世のなかで生まれた贅沢(所有欲)として捉えられるかもしれませんが、仮にそうだとでも、それがなぜ雛人形にも向けられたのか、またなぜ大型化なのか、これらの疑問が残ります。こうした江戸時代の人々の意識を探るには、あらためて当時の人々にとっての雛祭りの意味を考えてみる必要があるように思います。今後、雛祭りの社会的位置付けや江戸時代の「家」意識との関係のなかで、華美化の問題を考えていきたいと思えます。



大きな享保雛と写る西澤笛畝(左)

(学芸員 林進一郎)